

第5回 八戸市生活支援体制整備推進協議会

平成30年8月30日（木）

13時30分～

八戸市庁本館地下 会議室C

次第

1 開会

2 報告案件

報告1 住み慣れた地域での生活を考えるワークショップの実施状況について ※資料1

報告2 高齢者に対するごみ捨て支援の展開について ※資料2

3 審議案件

案件1 生活支援コーディネーターの配置について ※資料3

4 その他

5 閉会

住み慣れた地域での生活を考えるワークショップ参加者アンケート結果詳細
(平成 30 年 6 月 30 日実施分)

1. 回答者の属性

<地域住民>

1) 回答数

22 名 (三八城地区 2 名・根城地区 6 名・柏崎地区 3 名・江陽地区 3 名・その他 8 名)

2) 年齢構成 (地域住民等)

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代	合計
3 名	1 名	4 名	3 名	7 名	3 名	1 名	22 名

3) 性別

男性 3 名 女性 19 名 合計 22 名

4) 活動歴

	3 年未満	3 年～5 年 未満	5 年～10 年 未満	10 年～20 年 未満	20 年 以上	合計
民生委員	2 名		1 名	2 名	3 名	8 名
社協 (ボランティア)	1 名					1 名
町内会 (班長)					1 名	1 名
介護保険相談会				1 名		1 名
介護支援専門員	(年数不明)					1 名
自主防災会			1 名			1 名
無回答						9 名

合計 22 名

2. 回答内容

<地域住民>

1) ワークショップに参加した感想

	三八城地区	根城地区	柏崎地区	江陽地区	その他	合計
参加してよかった	1 名	5 名	3 名	3 名	8 名	20 名 (91.0%)
なんともいえない	1 名	1 名	0 名	0 名	0 名	2 名 (9.1%)
参加する必要なし	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名

※自由記述

- ・各地域の問題点や状況を知ることができた。(4名)
- ・いろいろな地区の意見が聞けたので良かった。(3名)
- ・いろいろな立場で意見を聞けた。
- ・自分では気づかなかった地域課題を知ることができた。
- ・民生委員の方の活動の話などが聞けたことがよかった。
- ・若い方から地区の民生委員の方まで生の声を聞くことができてよかった。
- ・今日のワークショップでのこと、自分が町内に持ちかえり、がんばれそうだ。
- ・意識の改革が必要。このようなワークショップは必要だと思う。
- ・結構、若者も真剣に考えてくれたことが良かった。
若者と意見交流することで、地域へ目を向けてもらえたかなと思う。
- ・町内の状況(ごみ捨てや町内活動への参加状況)について知ることができたし、
地域の方が自分の地域をどのように思っているか知ることができた。

2) ワークショップは継続すべきか

	三八城地区	根城地区	柏崎地区	江陽地区	その他	合計
継続すべき	1名	4名	3名	3名	7名	18名
なんともいえない	1名	2名	0名	0名	1名	4名
継続の必要なし	0名	0名	0名	0名	0名	0名
無回答	0名	0名	0名	0名	0名	0名

※自由記述

- ・民生委員や町内会のことなどを詳しく知ることができ、よかった。
- ・各地区の話が聞けてとても良かった。
- ・地域の状況を知る機会になる。
- ・地区からの参加が少なかったが、多くの人に参加してもらいたいのでこれからも続けて欲しい。
- ・情報交換の場等になるため、良いと思う。
- ・いろいろな立場の方の意見を聞きたい。
- ・話すこと、考えを交流することで具体的にイメージできる。
- ・地域課題が明確になる。地域資源の活用につながる。
- ・考えが広がるきっかけになる。
- ・その時によって問題点が変わってくる。
- ・年齢や職種関係なく、交流を持つことができてよかった。
- ・世代を問わず、自分の地区を良くするためにどうしていけばいいのか考えるいい機会になった。

3) ワークショップの改善点 (自由記述)

- ・うまくなじめていなかった。学生が参加、発言しやすい雰囲気づくりが必要。学生により、参加態度で差があった。
- ・良かった。
- ・積極的ではなかった。
- ・高齢者世帯の方や独居の方もいけば良いのでは。
- ・住民の方の参加がもう少し多くなるとよい。
- ・今回の方法は大変わかりやすく、出た意見を次の課題へつなげやすい。
- ・もっと多くの人に周知して欲しい。地域の要職の方に声をかけて欲しい。
- ・私はグループの地区に住んでいるため内容がわかるが、学生さんは他の地区に住んでいるため、会話にぜんぜんついていけずかわいそうだった。学生さんの参加意味があまりない気がする。
- ・参加する団体に伝達の方法を考える。

4) 学生が参加したことについての感想 (自由記述)

- ・積極的に参加していただき、好感がもてた。これからも頑張ってもらいたい。(2名)
- ・よかった。(2名)
- ・若い人の意見をもう少し聞く機会があってもよいのではないか。
- ・若い方の意見を聞くことができよかった。すすんで発表してくれてありがたい。積極的に頼もしい。
- ・思ったより積極的にやってくれた。
- ・これからの学生さんは担い手であり大事。
- ・学生が参加したので、すごくいろんな答えが聞けたことは良かった。
- ・若い方の意見が聞けてとてもよかった。とくに若い人は町内会に参加する人が少ない。
- ・とてもよかった。若い方と話ができて、ワクワクした。若い方の意見は大切だと思った。これからもお願いしたい。
- ・とてもいいことだと思った。
- ・若い人がこういうことに対する認識を深めるのはとてもいいと思う。自分が配置された地域の予習をしてきたらもっといいのではないか。
- ・結構真剣に考えて、頼もしいと思った。
- ・若い方が参加することは良いと思う。
- ・積極的に発言されたり、行動されて良かった。学生の方々と接する機会がないので嬉しかった。
- ・若い方の参加は非常に大切。大人になると頭がかたくなって意見が一つになりやすい。
- ・うまくなじめていなかった。学生が参加、発言しやすい雰囲気づくりが必要。学生により参加態度で差があった。

5) その他 (自由記述)

- ・参加者がたくさん出て欲しい。
- ・いろいろ日常抱えていることが多いのでそのことも取り上げられれば…。

1. 回答者の属性

<学生>

1) 回答数

8名

2) 年齢構成

概ね20歳

2. 回答内容

<学生>

1) ワークショップに参加した感想

	学生
参加してよかった	8名
なんともいえない	0名
参加する必要なし	0名
無回答	0名

※自由記述

- ・ 普段の生活ではあまり知らなかった地域の良いところや問題点を知ることができた。
- ・ 様々な課題があり、地域への関心が高まった。
- ・ いろいろな方々と話をし、それぞれの地域での利点などが分かった。
- ・ 和んだ空気で話し合いができた。
- ・ いろいろな人の意見や話を聞いたので良かった。
- ・ その地域の良いところや課題点について分かった。
- ・ 授業では聞けないことを聞いた。
- ・ 現実的な意見が聞いた。

2) ワークショップは継続すべきか

	学生
継続すべき	7名
なんともいえない	1名
継続の必要なし	0名
無回答	0名

※自由記述

- ・ 良い所や悪い所を再確認できる。
- ・ 地域の人たちと話すことができ、貴重な体験ができる。
- ・ 話をすることで勉強になる。
- ・ ワークショップで得る知識が大きい。
- ・ 新しい情報や意見が出るので、聞くべき必要もあると思う。
- ・ いろいろなことを聞ける。

- ・解決につながる。
- ・その地域のことを知ることはとてもいいと思うが、その地域の出身じゃない人は何も分からないため、会話の参加があまりできない。

3) ワークショップの改善点 (自由記述)

- ・特になし。(4名)
- ・わからない。
- ・字が小さい所があり、見えにくいのでは？

4) 地域の方と接して思ったこと (自由記述)

- ・普段聞けない話を聞くことができて良かった。
- ・様々な思いがあると思った。たくさんのニーズを持っていた。
- ・とても優しい人ばかりで町内会には参加していきたくと思った。
- ・雪かきがどの地域でも大変なことは知っていましたが、より深い悩みを知ることができ、良かった。
- ・地域の知らないことなどを知れてよかった。
- ・いろんな地域でさまざまな課題があるということが分かった。
- ・親切にしてくれた。
- ・盲点だと思ったことがたくさんあった。

5) 地域の活動に協力して欲しいといわれたらどう思うか

	学生
協力したい	2名 (25.0%)
協力する方向で考えたい	4名 (50.0%)
協力は難しい	0名 (0%)
何とも言えない	0名 (0%)
未回答	2名 (25.0%)

※必要なサポートを自由に記載

- ・交通費が出るとありがたい。(2名)
- ・地域についての情報が欲しい。
- ・見学をセッティングして欲しい。

6) その他 (自由記述)

- ・いい時間だったと思う。
- ・とても楽しかった。
- ・とても良い機会をありがとうございました。

高齢者に対するごみ捨て支援の展開について

第4回協議会（平成30年5月24日）において、委員から「取組を推進すべき」との意見があったため、社会福祉法人ぶさん会に続く事業所等の新規開拓を行った。

I 新規開拓した事業者について

1 社会福祉法人東幸会

法人概要	平成6年に法人が認可され、八戸市内において障害者支援施設東幸園、相談支援センター東幸園、特別養護老人ホームサンシャイン、小規模多機能ホームサンシャインなどを事業展開している。※東幸会 HP から抜粋
市の働きかけ状況	・平成30年7月13日、高齢福祉課職員が事業所を訪問し、ごみ捨て支援の実施案について意見を聴取したところ協力の申し出あり。
対応地区	大久保地区の一部（大久保町内の周辺）
開始日	平成30年7月（実績1件）※7月30日から週1回程度訪問

2 社会福祉法人俊公会

法人概要	平成9年に法人が認可され、就労継続支援B型事業所ソーシャルファームエッグス、生活支援事業俊公園、児童発達支援・放課後等デイサービスチャレンジドキッズスペースオハナ等を事業展開している。※俊公会 HP から抜粋
市の働きかけ状況	・平成30年7月3日、高齢福祉課職員が事業所を訪問し、法人の支援部長及びソーシャルファームエッグスの管理者と打ち合わせを実施。 ・7月11日、下長地区（石堂、下長、高館）での実施申し出あり。 ・7月17日、ごみ捨て支援について最終確認。
対応地区	下長地区の一部（下長一丁目・石堂二丁目及び高館の周辺）
開始日	平成30年7月（実績0件）

【参考】社会福祉法人ぶさん会

法人概要	昭和59年に法人が認可され、八戸市内において指定障がい福祉サービス多機能型事業所柿の木苑、指定就労継続支援B型事業所ワーク柿の木苑、相談支援センター柿の木苑、地域生活支援センター柿の木苑などを事業展開している。
市の働きかけ状況	・平成29年12月9日のワークショップに置いて「ごみ捨て支援」のニーズが挙げられたことを受けて、高齢福祉課から法人に接触 ・平成30年2月から試行的取組として開始。
対応地区	根城地区の一部（根城町内・東根城町内）
開始日	平成30年2月（実績2件）

II 料金設定について

新たな事業者が参画したため、前回の協議会においても指摘されていた「適正な料金」について、各法人と意見交換したところ、「ごみ捨て1回100円を目安とする」という結論が得られた。

※現場では高齢者の事情を考慮して「1回100円以下」での対応もありえると思われるため、現時点では緩やかな取り決めに留めることとしたい。

生活支援コーディネーターの配置について

I はじめに

- ・第4回協議会（平成30年5月24日）に、「生活支援体制整備事業の 実施について」の審議をお願いしたところ、第2層生活支援コーディネーターの配置については、住民の利便性への配慮や施設機能集約の観点から、八戸市内12か所の高齢者支援センター職員が兼務するという方向性がまとまったところである。

※なお、第1層生活支援コーディネーターは八戸市高齢福祉課の島田、山口の2名となっている。

- ・協議会での決定を受け、高齢者支援センターを運営する法人に第2層生活支援コーディネーターの推薦を依頼したところ、下記のとおり回答があった。

II 第2層生活支援コーディネーター候補者の一覧（24名）

法人名	包括名	担当地区	名前	職種
社会福祉法人 スプリング	福寿草	大館、東	川井 純子	主任介護支援専門員
			佐々木 廣平	看護師
社会福祉法人 同伸会	瑞光園	白銀南、鮫、 南浜	内澤 菜美輝	社会福祉士
			笹川 佳子	主任介護支援専門員
社会福祉法人 寿栄会	寿楽荘	市川、根岸	伊藤 信明	主任介護支援専門員
			井ノ上 洋一	社会福祉士
株式会社 ゆとり	ゆとり	南郷	下平 敦子	主任介護支援専門員
			磯島 祐美子	看護師
医療法人 康和会	ちょうじやの森	長者、 白山台	梶本 隆	主任介護支援専門員
			小林 紗知子	社会福祉士
一般社団法人 八戸市医師会	八戸市医師会	柏崎、吹上	中里 和江	看護師
			尾崎 景子	看護師
社会福祉法人 みやぎ会	みやぎ	三八城、 根城	坂本 美華	社会福祉士
			櫻橋 和加子	主任介護支援専門員
社会福祉法人 ファミリー	ハピネスやくら	田面木、館、 豊崎	小泉 明美	主任介護支援専門員
			佐藤 ひとみ	社会福祉士
社会福祉法人 八陽会	修光園	是川、 中居林	高奥 佳代子	社会福祉士
			林崎 絵里香	看護師
医療法人 仁泉会	えがお	白銀、湊	渡部 哲也	社会福祉士
			高田 恒	主任介護支援専門員
公益財団法人 シバ-リハビリテーション協会	はくじゅ	下長、上長	久保沢 光浩	社会福祉士
			佐々木 ひとみ	主任介護支援専門員
医療法人 杏林会	アクティブ24	小中野、 江陽	堀内 博子	主任介護支援専門員
			吉田 由美子	看護師

Ⅲ 第2層生活支援コーディネーター基礎研修

第2層生活支援コーディネーター候補者は40～50歳代の者が中心であるため、十分な業務経験や社会経験があると思われるが、万全を期するために生活支援体制整備事業及び八戸市の取組を伝える研修を実施した。

実施日時	平成30年7月23日 13時30分～15時00分 平成30年7月30日 13時30分～15時00分 ※高齢者支援センターの運営に配慮して同内容の研修を2回実施することとし、いずれかの回に参加してもらうこととした。
参加者	第2層生活支援コーディネーター候補者24名
内容	<ul style="list-style-type: none"> 生活支援体制整備事業の内容 生活支援体制整備事業の必要性 八戸市の取組 生活支援コーディネーターの活動 ※詳細は資料4

【参考】生活支援コーディネーターの資格について（地域支援事業実施要綱 P44～45 から抜粋）

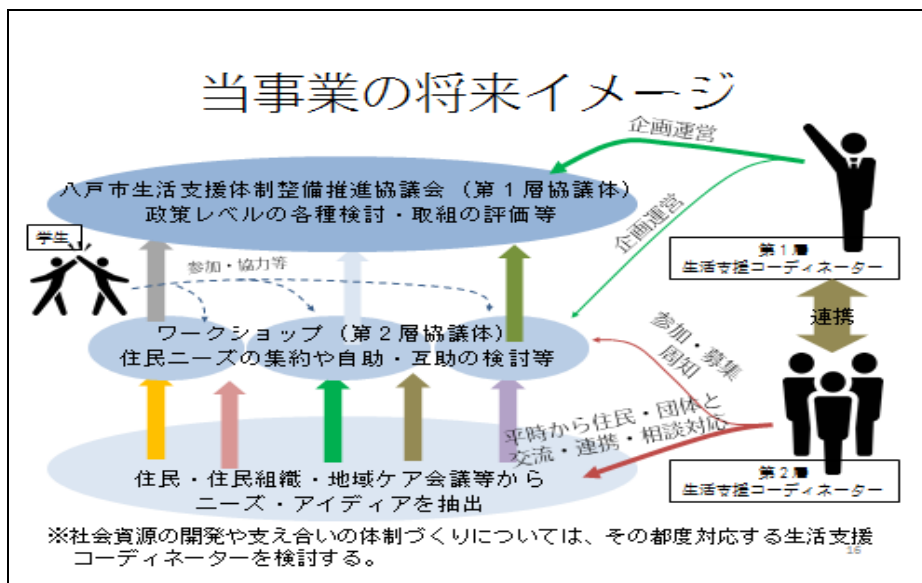
(エ) 資格・要件

地域における助け合いや生活支援等サービスの提供実績のある者又は中間支援を行う団体等であって、地域でコーディネート機能を適切に担うことができる者とする。

このように、特定の資格要件は定めるものでないが、市民活動への理解があり、多様な理念をもつ地域のサービス提供主体と連絡調整できる立場の者であって、国や都道府県が実施する研修を修了した者が望ましい。

なお、コーディネーターが属する組織の活動の枠組みを超えた視点、地域の公益的活動の視点、公平中立な視点を有することが必要である。

【参考】八戸市の生活支援体制整備事業のイメージ（第4回協議会・資料5から抜粋）



八戸市 生活支援コーディネーター基礎研修

八戸市高齢福祉課

平成30年7月23日 / 7月30日

はじめに

第2層生活支援コーディネーターとは、生活支援体制整備事業を推進するための役割を果たす存在。

よって、まずは事業全体について説明していきます。

生活支援体制整備事業

《目的》

単身や夫婦のみの高齢者世帯、認知症の高齢者が増加する中、医療、介護サービス提供のみならず、地域住民に身近な存在である市町村が中心となって、（中略）生活支援サービスを担う事業主体と連携しながら、多様な日常生活上の支援体制の充実・強化及び高齢者の社会参加の推進を一体的に図っていくことを目的とする。

※地域支援事業実施要綱から抜粋

生活支援体制整備事業

《具体的取組》

第1層及び第2層の全てで以下を実施する。

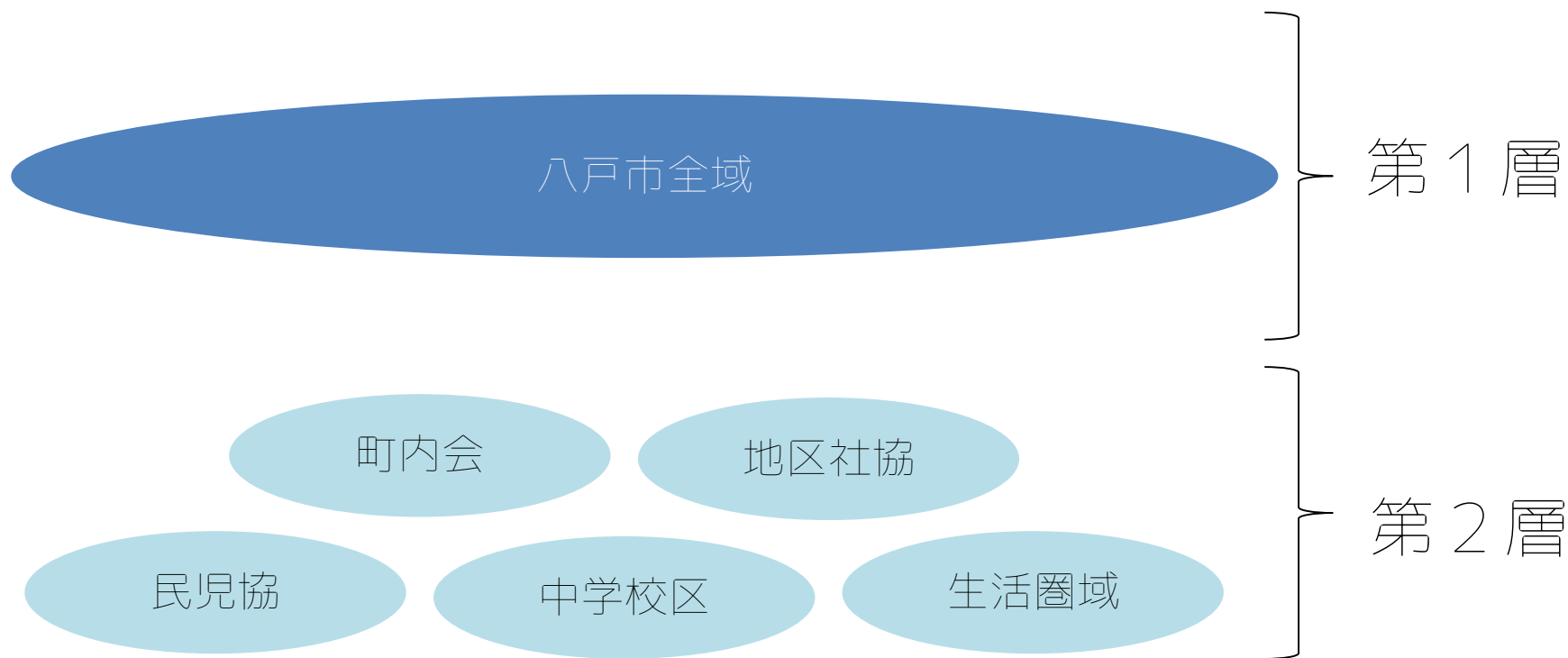
協議体の整備

多様な関係者間の定期的な情報提供及び連携・協働による取組みを推進するための場。

生活支援コーディネーターの配置

「資源開発」「ネットワーク構築（協議体の運営を含む）」「ニーズと取組のマッチング」を行う人員の配置。

第1層・第2層とは



八戸市の第2層は「民児協・地区社協」の25地区としているが、各市町村が任意で定めることができるため、自治体によって様々である。

少し話題を切り替えて…

なぜこの事業が必要なのか

そもそも生活支援体制整備事業が必要なのはなぜだろう。

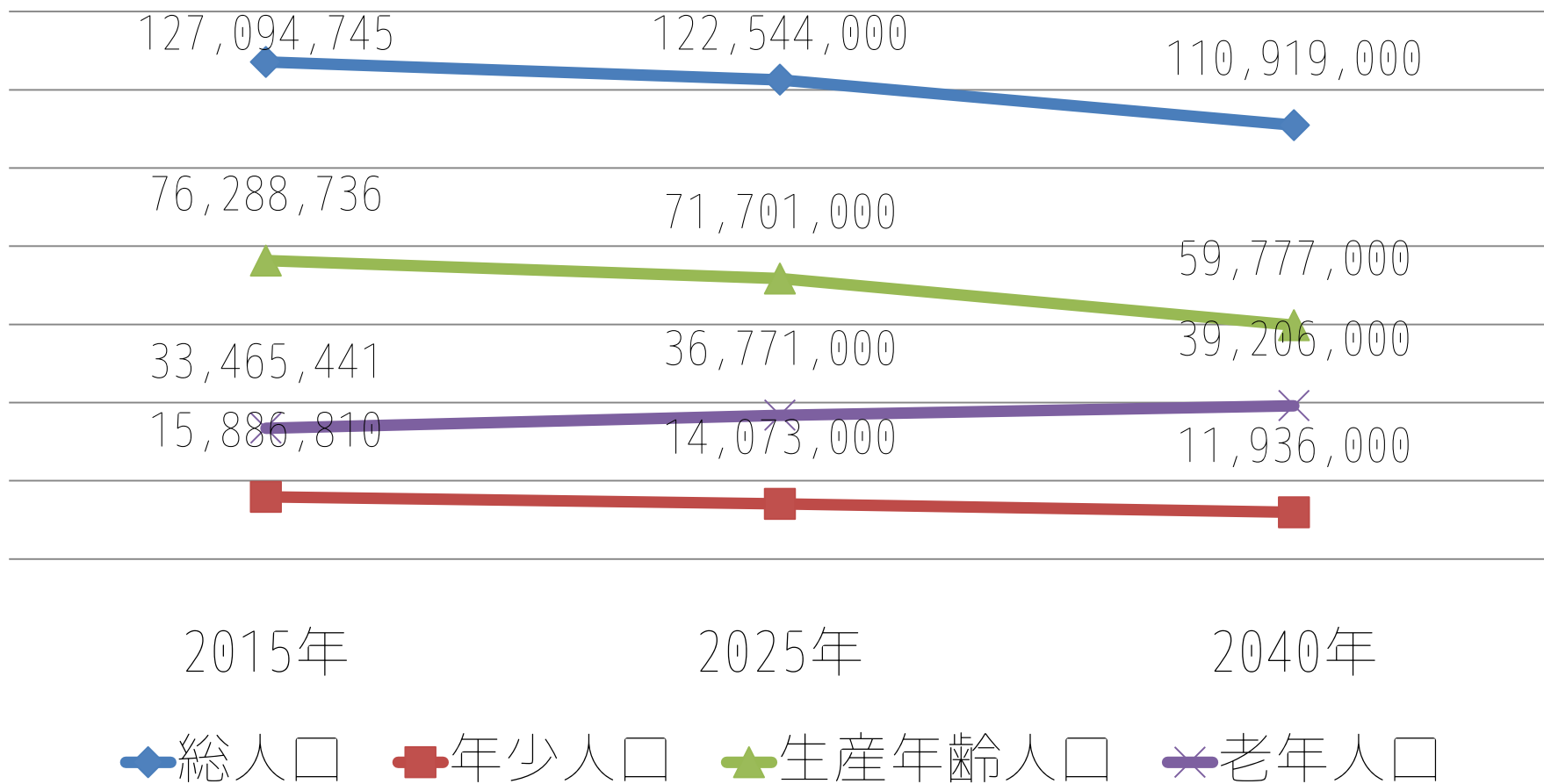
「地域包括ケアシステムの推進」と言えば分かったような感じがするが、本当に知らなければいけないのは、「なんで地域包括ケアシステムが必要なのか」ということである。

これらの点について、いくつか理由を挙げて説明を試みることにする。

なぜこの事業が必要なのか

理由①生産年齢人口の減少

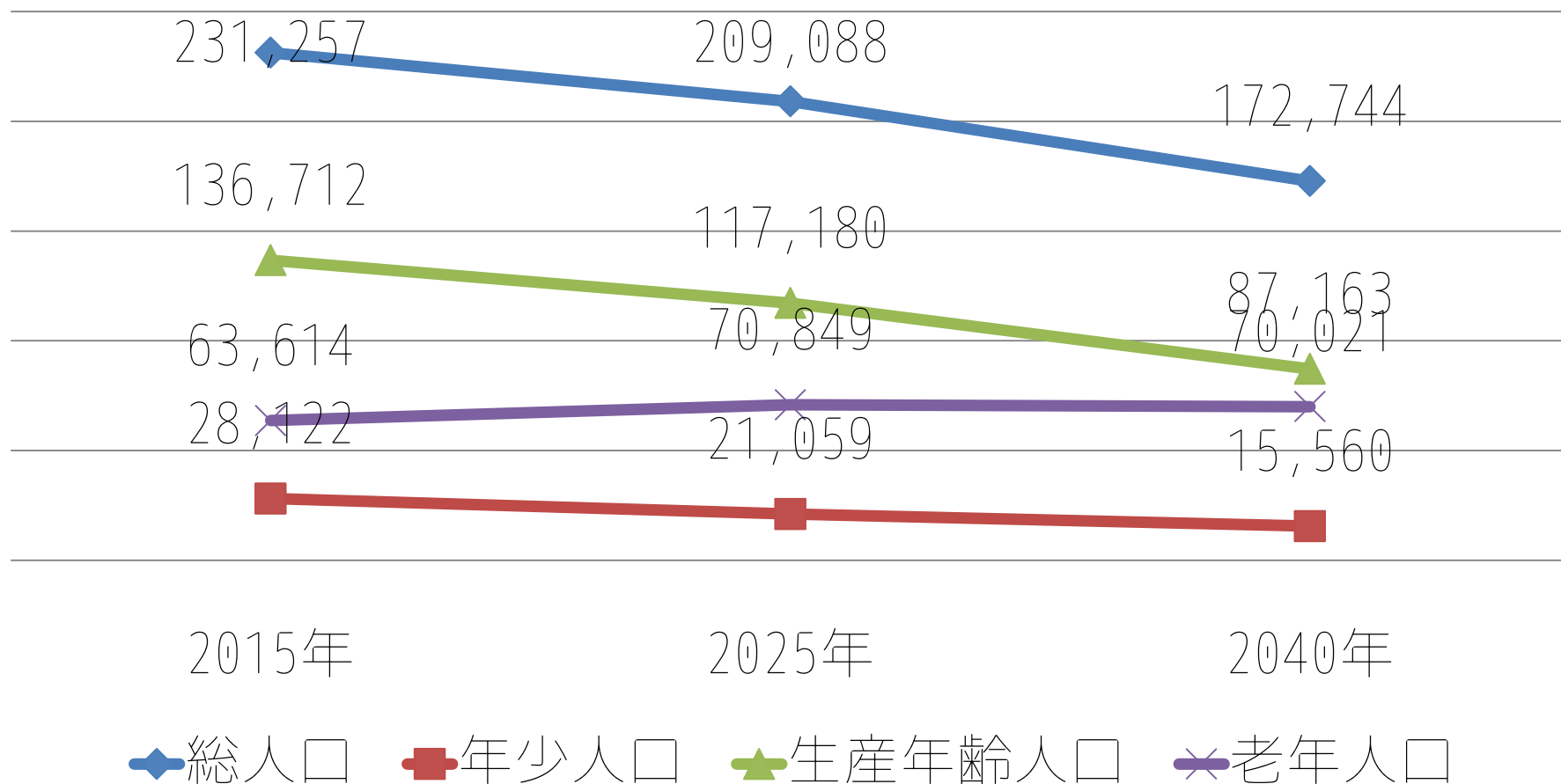
《全国》



なぜこの事業が必要なのか

理由①生産年齢人口の減少

《八戸市》

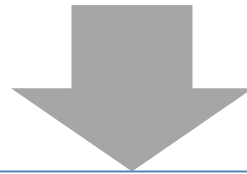


なぜこの事業が必要なのか

理由①生産年齢人口の減少

《まとめ》

- 2040年にかけて全国的に人口減少がすすむ。
- 高齢者人口の増加よりも生産年齢人口の減少ペースが速い。



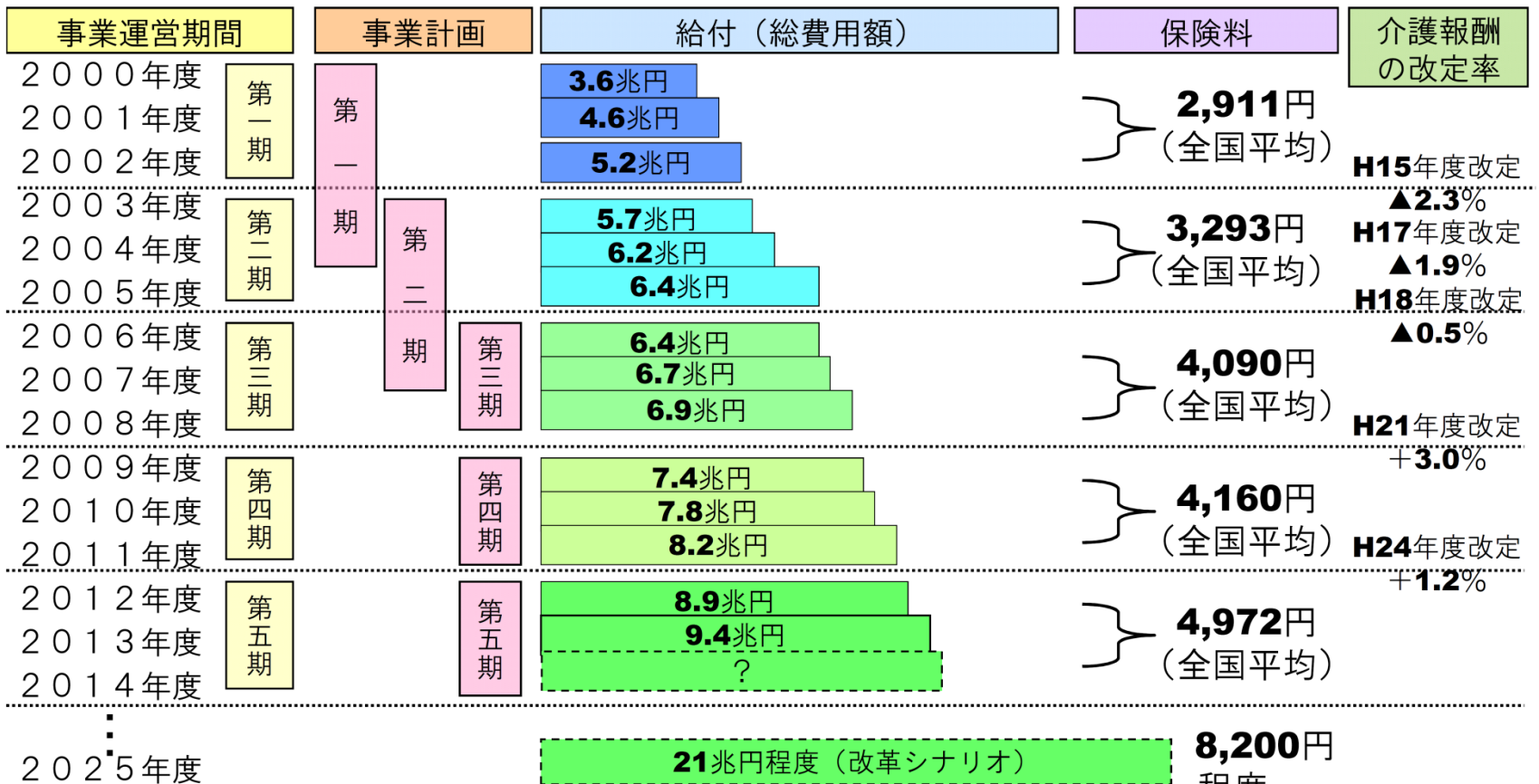
既存のシステムを転換する
必要性！

既存の社会保障制度は世代間の支え合いを基本としているが、支え手である若い世代が少なくなるので、このままではシステムを維持することができない。具体的に言えば「施設を作れと言うけど、人手が足りませんよ」という状況になる。

なぜこの事業が必要なのか

理由②国民の負担が増す

《介護保険料（厚生労働省資料から）》



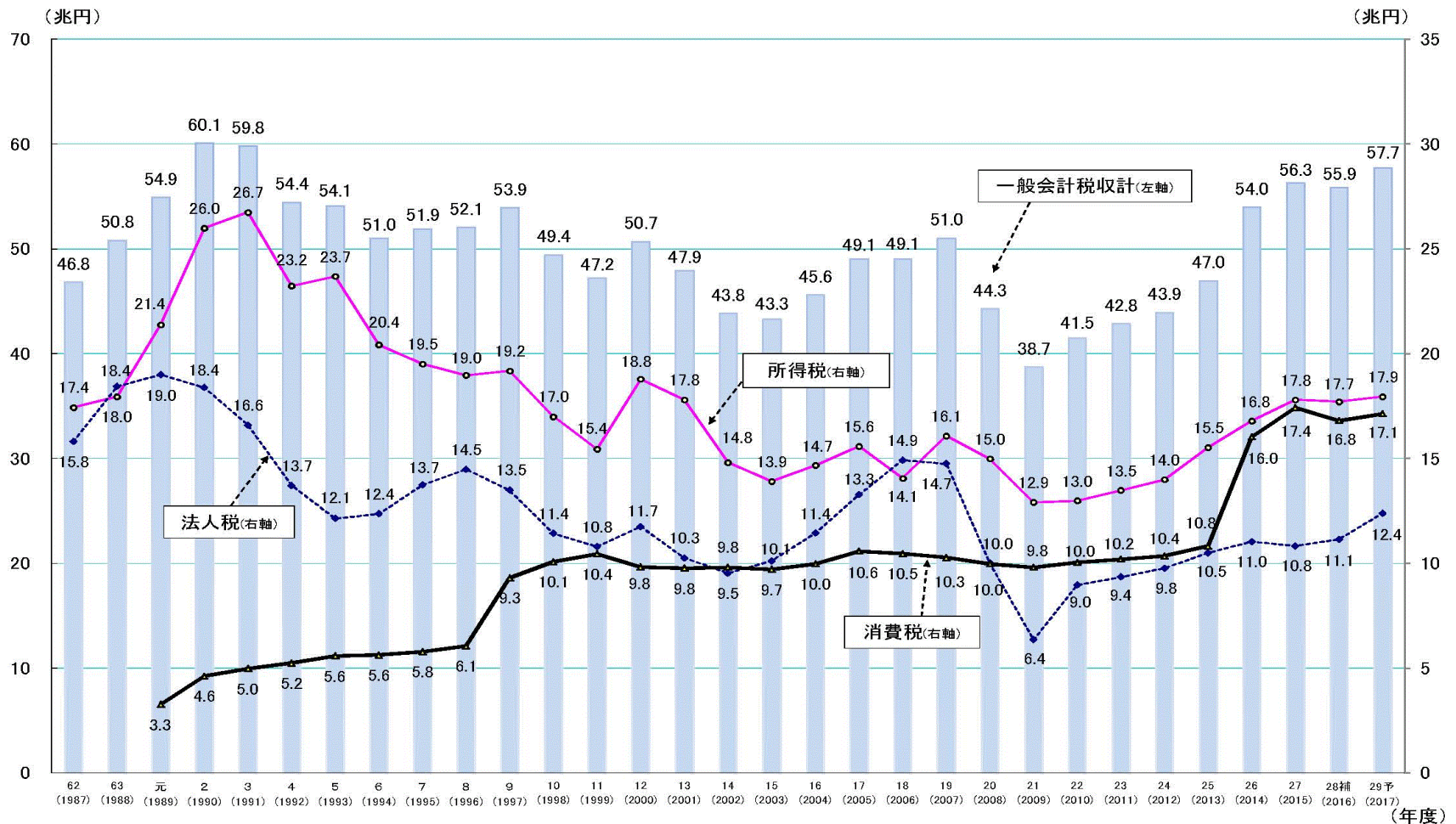
※2010年度までは実績であり、2011～2012年は当初予算、2013年は当初予算(案)である。
 ※2025年度は社会保障に係る費用の将来推計について(平成24年3月)

※2012年度の賃金水準に換算した値

なぜこの事業が必要なのか

理由②国民の負担が増す

《国の一般会計税收推移（財務省資料から）》



なぜこの事業が必要なのか

理由②国民の負担が増す

《まとめ》

- 年金、介護保険など社会保障を担う仕組みは、税金（一部は公債）、保険料、自己負担分で賄われている。
- 例えば、介護保険を見るだけでも、給付額が増加傾向にある。
- このことは、税、保険料、自己負担の増加が視野に入ってくることを意味している。



このままでは負担増に加えて将来世代に負担を先延ばしすることにもなりかねない。

なぜこの事業が必要なのか

理由③理念の変化

1990年代から日本国内の社会保障制度は個人を尊重する方向性が打ち出されている。

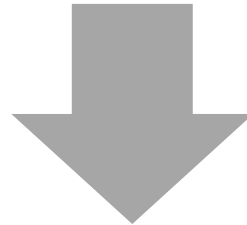
1990年代	： 社会福祉基礎構造改革	－ 措置から利用へ
2000年	： 介護保険法施行	－ 利用方式
2006年	： 障害者自立支援法施行	－ 応益負担・総合的
2013年	： 障害者総合支援法施行	－ 応能負担
2015年	： 介護保険法改正	－ 予防強化
2016年	： 介護保険法改正	－ 自助・互助推進

なぜこの事業が必要なのか

理由③理念の変化

《まとめ》

現在の社会保障制度は、「個別性への配慮」「予防的対応の強化」「多様なサービスのあり方」「自助・互助の推進」「社会モデルへの転換」などの理念のもとに推進されている。



「施設への収容」「縦割りの支援体制」「専門家だけが支援を行う」といった考えは古いもの。今後は、新しい潮流を理解した対応が必要である。

なぜこの事業が必要なのか

全体のまとめ

- 人口構成の変化によって、世代間扶助の考えに基づく従来の社会保障制度を維持することが難しくなっている。→人口減少・積み立て不足など
- 際限なく国民負担を増やしていくことはできない。
- 理念の面で個別性を重んじた社会保障制度が求められている。



既存のサービスを余すところ無く活用し、自助や互助にも期待する地域包括ケアシステムが存在感を増すことに。その一部を担うのが生活支援体制整備事業である。

話を生活支援体制整備事業に
戻して—

八戸市の事業の方向性①

- 第1層・第2層の考え方
第1層は八戸市全域を1地区とする
第2層は地区社協・民児協の25地区とする
※第4回生活支援体制整備推進協議会で決定
- 生活支援コーディネーターの配置
第1層は高齢福祉課職員2名
第2層は高齢者支援センター職員
※第4回生活支援体制整備推進協議会で決定

八戸市の事業の方向性②

- 資源開発の考え方
既存のサービス活用を推進
※平成28年度調査で既存サービスの認知度が低いことが判明
- ネットワークづくりの考え方
既存のネットワークや住民組織の活動を尊重しながら先方の負担増とならないあり方を模索。その結果「ワークショップ」という形になった。
- 学生の役割
ワークショップの活性化、将来の八戸市民育成など多様な意味があるが、学生に押し付けない。

八戸市の取組状況

協議体の整備

第1層：生活支援体制整備推進協議会

第2層：ワークショップ

生活支援コーディネーターの配置

第1層：高齢福祉課職員兼務

第2層：高齢者支援センター職員兼務

住民ニーズに対する具体的な取り組みについては、第3回生活支援体制整備推進協議会において「9つの対策」にまとめている。※別紙参照

生活支援体制整備推進協議会

《概要》

所事	管務	生活支援体制整備事業の推進に関し必要な事項について協議し、市長に対して意見を述べる。
委構	員成	八戸市社会福祉協議会、八戸市民生委員児童委員協議会、社会福祉法人白銀会、社会福祉法人ぶさん会、青森生活協同組合、八戸市シルバー人材センター、八戸学院大学、株式会社池田介護研究所
設置年		平成29年4月1日

生活支援体制整備推進協議会

《実績》

H29.7.28	<ul style="list-style-type: none">生活支援体制整備事業についてワークショップ実施案 など
H29.8.28	<ul style="list-style-type: none">ワークショップ実施報告及び継続実施の可否について など
H30.3.28	<ul style="list-style-type: none">ワークショップ実施報告障がい福祉施設によるごみ捨て支援ニーズへの対策案 など
H30.5.24	<ul style="list-style-type: none">ニーズへの対策案進捗状況生活支援コーディネーターについて など

ワークショップ

《目的》

- 住民参加で地域の課題について解決策の検討等を行う。
- 地域包括ケアシステムの周知を図る。
- ワークショップを地域活動活性化のきっかけにする。

《工夫》

- 八戸学院大学の学生に参加を依頼
- ワークショップの実施状況を必ず協議会に報告し、1年間かけて企画をブラッシュアップ。

ワークショップ

《実績》

H29.8.23	地区：白銀・小中野 人数：住民29名・学生8名
H29.12.9	地区：白山台・長者・吹上 人数：住民30名・学生12名
H30.2.23	地区：鮫・南浜・白銀南 人数：住民29名・学生10名
H30.6.30	地区：根城・三八城・柏崎・江陽 人数：

ワークシヨップ

《評価》

- 住民の89.5%が「参加してよかった」とし、67.4%が「継続すべき」と評価した。
- 学生の95.4%が「参加してよかった」「継続すべき」と評価した。
- 生活支援体制整備推進協議会においては、学生が前向きに参加していることに驚く声が挙がるとともに、継続すべき企画であるとの評価がなされた。
- 東奥日報の報道（H30.6.8）を受けて、県庁や市の関係部局からも問合せあり。ポジティブな評価を受けている。

資源開発

八戸市では既存の資源活用が課題になっているが、同時に資源開発にも取り組んでいる。

- 障がい者福祉施設によるごみ捨て支援
社会福祉法人ぶさん会が「根城町内」「東根城町内」で展開中。法人職員又は利用者が訪問してゴミを回収して集積所に出す。利用料は今のところ無料だが、利用者から「無料でない方が」という声が挙がっているため、検討中。

生活支援コーディネーターの活動について

地域支援事業実施要綱によると

《コーディネート機能》

- 資源開発
- ネットワーク構築
- ニーズと取組のマッチング

《活動範囲》

第1層または第2層

生活支援コーディネーターの視点

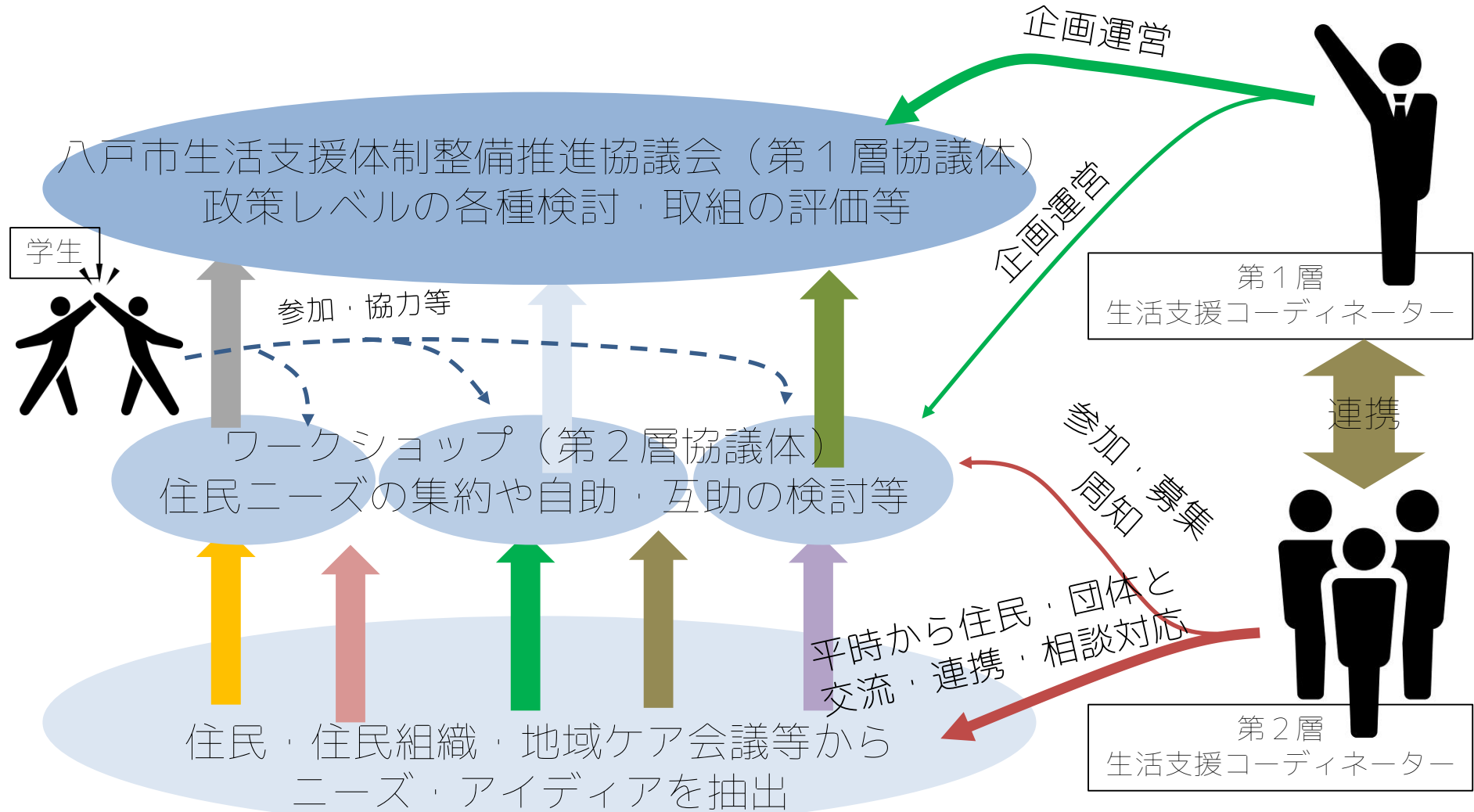
- 生活の主体者である本人の意向、生き方を尊重する
- 支援を受けながら自立した地域生活を維持する支援
- 社会参加、人とのつながり、生きがい、楽しみの支援
- 出番づくり、役割づくりの支援

生活支援コーディネーターの役割

- フォーマルサービスとインフォーマルサービス、活動とのつながりを良くする
- 生活支援を通しての地域づくり

具体的な活動について話をー

八戸市の事業の全体像



※社会資源の開発や支え合いの体制づくりについては、その都度対応する生活支援コーディネーターを検討する。

第2層コーディネーターは

《平時》

通常業務の「総合相談業務」「町内会や民児協などの住民組織との連携」「地域ケア個別会議」を実施する。「現状では充足できないニーズ」「新しい活動の芽生え」「新しいアイデア」が見つかったときには第1層コーディネーターへ伝達する。

《+αの活動》

積極的に第2層コーディネーター業務を行う場合でも単独で抱え込まなくても良い。第1層コーディネーターと協働のもと進めていく。

※「やってください」という意味ではないです。

最後に

生活支援体制整備事業は地域包括ケアシステムを実現するための事業。

よって、community-basedということになるから、どの地域でもユニークな活動が展開されるはず。

とはいえ、独自性を出すのは容易な話ではないということ、業界人ならば誰でも知っている。

八戸市は独自色を打ち出しつつあるが、それに縛られること無く、また別のアイデアが出てきたときには平等に取り扱いたい。